

### 3回目となる猟友会との ニホンジカ等捕獲協定の締結

利根沼田森林管理署



利根沼田署では地元猟友会と連携し、国有林野内でのニホンジカ等被害対策を効果的に実施するための捕獲協定を11月2日に締結しました。これは、平成26年度に「群馬県利根沼田地域鳥獣被害対策推進会議」が設立され、当署と猟友会が構成員になったことから、「推進会議」の設置目的である「利根沼田地域の関係機関等の連携を図り、被害対策を効率的に推進するため」の一つの方策として実施しているものです。

特に、当署においては管内の森林面積の約64%を国有林が占めるため、国有林野内で効率的に捕獲することが地域の農林業被害を軽減するため有効です。

初めて取り組んだ26年度から、国有林道ゲートの貸付要件を緩和した2年目の昨年度は、ニホンジカ232頭、イノシシ129頭と捕獲頭数が大幅に増加しました。

今年度も無事故で狩猟期を終えることを重点に、狩猟期間が昨年の2月15日から2月末（ニホンジカ、イノシシに限る。）に延長されましたので、昨年以上の成果を期待しています。

### 国有林モニター会議を開催

総務企画部 企画調整課

関東森林管理局では、国有林野事業をご理解いただくとともに、国有林野の管理経営に役立てていくため、一般公募による70名の方に国有林モニターを依頼しています。

国有林モニターの皆様には、広報誌や森林・林業に関する資料を毎月お送りするとともに、年2回のアンケートや意見交換などを行う国有林モニター会議を実施しています。

今年度のモニター会議は9月27日に茨城森林管理署管内で開催し、16名の国有林モニターの方々にご参加

いただきました。

当日は、林業・木材産業について実際に現場を見て理解を深めていただくため、国有林内での丸太生産の様子や、多くの木材関連施設が立地している宮の郷工業団地内の製材工場、木質バイオマス発電所、原木市場を視察し、その後、意見交換を行いました。

国有林モニターの皆様からは、次のようなご意見をいただきました。  
・伐採から製材までの一連の流れを視察でき、大変良い機会でした。  
・林地残材などを利用した木質バイオマス発電は様々な課題をクリアし、資源の循環利用を推進してほしい。  
いただきましたご意見は、今後の国有林事業に活かせるよう取り組んでまいります。



木質バイオマス発電所の視察

### 今月の表紙 「『山の日』イベント」

福島森林管理署では、平成26年度から、福島市土湯温泉近くの国有林内森林公園「きぼっこ森」(「きぼっこ」とは、「こけし」のことです。)において樹木博士への認定試験を開催しています。

今年、一般60名の家族を公募し、今年から祝日となった「山の日」の8月11日に「親子『子ども樹木博士』チャレンジ2016」と銘打って、樹木博士のイベントを行いました。

試験木には、遊歩道沿いの樹皮や葉・使われる用途・匂いなど特徴のある樹木15種を選定し、試験前の勉強会(写真左上)では若手職員が判りやすい解説に苦心しながら担当しました。試験(写真右上)では15名が満点となり、参加者全員に当署長から樹木博士に認定する賞状を授与して終了(写真下)しました。

